

級・段位認定試験種目における正しい技の定義は、「級・段位認定試験及び公式戦におけるルールの原則」及び当項「技の解説と注意事項」による。

【持ち方】：

けん玉の持ち方は「級・段位認定試験及び公式戦におけるルールの原則」及び別紙7項を参照のこと。持ちかえの必要な技は、まず最初の持ち方を示し、その後に持ち替え後の持ち方を示す。

例 つるしとめけんの場合

【持ち方】 つるし技の持ち方

最初の持ち方を示す

2本の指で糸の中程を持ち、けん玉をつるす（右利きの場合：左に玉、右にけん）。

持ち替え後の持ち方 とめけんの持ち方に準じる持ち方

持ち替え後の持ち方を示す

【技の動作】：技の「構え」から「成功」までの動作を示す。

【注意事項】：技の成功・失敗の判定に関する注意事項を示す。

以下に、技の解説と注意事項を記す。

1 級位認定試験種目の技

① 大皿

【持ち方】 大皿の持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を鉛直上方に引き上げて、大皿に乗せる。

【注意事項】

- ・玉が大皿に乗った時、玉と皿の間に糸がはさまった場合は可とする。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

② 小皿

【持ち方】 大皿の持ち方 ただし小皿が親指側になるようにけんを持つこと。

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を鉛直上方に引き上げて、小皿に乗せる。

【注意事項】

- ・玉が小皿に乗った時、玉と皿の間に糸がはさまった場合は可とする。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

③ 中皿

【持ち方】 大皿の持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を鉛直上方に引き上げて、中皿に乗せる。

【注意事項】

- ・玉が中皿に乗った時、玉と皿の間に糸がはさまった場合は可とする。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行

った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

④ ろうそく

【持ち方】 ろうそくの持ち方

【技の動作】

けん先を持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を鉛直上方に引き上げて中皿に乗せる。

【注意事項】

- ・皿胴を持ってはならない。
- ・玉が中皿に乗った時、玉と皿の間に糸がはさまった場合は可とする。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑤ とめけん

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を回転させずに鉛直上方に引き上げて玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉を回転させてはならない。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑥ 飛行機

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って手前に引き寄せ構える。けんを放してけんを前に振り出し、玉を手前に動かしてけんを引き空中でけんを手前に1/2回転させ、けん先を玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・手でけんを持って体を一旦静止させて構えた後、けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けんを手で持たないで一旦体を静止させ構えた後、けんを前後に振るなどの予備動作を始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑦ ふりけん

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

一方の手でけんを持ち、他方の手でつり下げた玉を持って手前に引き寄せ構える。玉を放して玉を前に振り出し、けんを手前に動かして玉を引き空中で玉を手前に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・手で玉を持って体を一旦静止させて構えている場合、玉を振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。

- ・手で玉を押さえずに一旦体を静止させて構えている場合、玉を前後に振るなどの予備動作を始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑧ 日本一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて小皿に乗せる。次に玉を投げ上げ大皿に玉に乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・最初の皿乗せは、大皿でも小皿でもよい。すなわち、「小皿～大皿～けん」又は「大皿～小皿～けん」の順で行うこと。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態からつり下げた玉を小皿（または大皿）に乗せる動作をするために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑨ 世界一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて小皿に乗せる。次に玉を投げ上げ大皿に玉に乗せる。続いて玉を投げ上げ中皿に玉に乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・最初の皿乗せは、大皿でも小皿でもよい。すなわち、「小皿～大皿～中皿～けん」又は「大皿～小皿～中皿～けん」の順で行うこと。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態からつり下げた玉を小皿（または大皿）に乗せる動作をするために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑩ 灯台

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

玉を持ち、けんを下につり下げて構える。玉を動かしてけんを回転させずに、鉛直上方に引き上げ、玉の上に中皿を乗せてけんを立て静止させる。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・灯台を完成させた後、審査員長の「成功」の合図（発声）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・「構え」の状態からつり下げたけんを引き上げるために、けんを上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、降ろしたけんを引き上げずにけんを持ち直すなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑪ もしかめ

【持ち方】 大皿の持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を大皿に乗せて構える。けんを動かして玉を投げ上げ中皿に玉を乗せる。続いて玉を投げ上げ大皿に玉を乗せる。この玉を大皿から中皿へ、中皿から大皿へと一連の動作を継続して繰り返す。

【注意事項】

- ・もしかめ回数の数え方は、最初に玉を大皿に乗せて（手で乗せてもよい）から、中皿に移動して1回、大皿にもどして2回、中皿に移動して3回・・・と数える。
- ・「もしかめ」は、1回の試技にて中断、落球することなく継続して規定回数を行うこと。
- ・一級では、1分間135回以上の速さで行うこと。
- ・玉は皿に正確に接触すること。玉が皿の縁のみに当たるような場合は、正確に接触したとせずこれを2回（2皿）続けた場合は失格とする。

2 準初段位認定試験種目の技

① とめけん

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を回転させずに鉛直上方に引き上げて玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉を回転させてはならない。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

② 飛行機

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って手前に引き寄せ構える。けんを放してけんを前に振り出し、玉を手前に動かしてけんを引き空中でけんを手前に1/2回転させ、けん先を玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・手でけんを持って体を一旦静止させて構えた後、けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けんを手で持たないで一旦体を静止させ構えた後、けんを前後に振るなどの予備動作を始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

③ ふりけん

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

一方の手でけんを持ち、他方の手でつり下げた玉を持って手前に引き寄せ構える。玉を放して玉を前に振り出し、けんを手前に動かして玉を引き空中で玉を手前に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・手で玉を持って体を一旦静止させて構えている場合、玉を振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。

- ・手で玉を押さえずに一旦体を静止させて構えている場合、玉を前後に振るなどの予備動作を始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす

④ 県一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて中皿に玉を乗せる。次に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉を中皿に乗せる時は、玉は確実に皿の上に乗ること。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑤ 日本一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げてかまえる。けんを動かして玉を引き上げて小皿に乗せる。次に玉を投げ上げ大皿に玉を乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・最初の皿乗せは、大皿でも小皿でもよい。すなわち、「小皿～大皿～けん」又は「大皿～小皿～けん」の順で行うこと。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑥ 世界一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて小皿に乗せる。次に玉を投げ上げ大皿に玉を乗せる。続いて玉を投げ上げ中皿に玉を乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・最初の皿乗せは、大皿でも小皿でもよい。すなわち、「小皿～大皿～中皿～けん」又は「大皿～小皿～中皿～けん」の順で行うこと。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑦ 灯台

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

玉を持ち、けんを下につり下げて構える。玉を動かしてけんを回転させずに、鉛直上方に引き上げ、玉の上に中皿を乗せてけんを立て静止させる。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・灯台を完成させた後、審査員長の「成功」の合図（発声）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・「構え」の状態からつり下げたけんを引き上げるために、けんを上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、降ろしたけんを引き上げずにけんを持ち直すなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑧ けん先すべり

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げ、糸の出ている側の「けん先と皿胴」に玉を乗せる。この時玉の穴の縁がけん先に接触していること。このまま玉をけん先から離さずに滑らせて玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉は糸の出ている側の「けん先と皿胴」に乗せること。
- ・玉の穴の縁がけん先に接触し、且つ玉の面の一部が皿胴に接触した状態で玉を「けん先と皿胴」に乗せること。
- ・玉が「けん先と皿胴」に乗った時、及び玉の穴にけん先が入る直前まで、少なくともけんの先端側の穴の縁がけん先に接触していること。
- ・玉の穴の縁がけん先上を滑る状態で玉の穴にけん先が入ること。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。玉をけん先上で滑らせる動作を試みたが、玉が滑らなかった場合は失敗と見なす。
- ・「けん先と皿胴」に玉が正しく乗っていればここで静止する必要はないが、これを静止してから玉を滑らすことは中断とは見なさない。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑨ もしかめ

【持ち方】 大皿の持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を大皿に乗せて構える。けんを動かして玉を投げ上げ中皿に玉を乗せる。続いて玉を投げ上げ大皿に玉を乗せる。この玉を大皿から中皿へ、中皿から大皿へと一連の動作を継続して繰り返す。

【注意事項】

- ・もしかめ回数の数え方は、最初に玉を大皿に乗せて（手で乗せてもよい）から、中皿に移動して1回、大皿にもどして2回、中皿に移動して3回・・・と数える。
- ・「もしかめ」は、1回の試技にて中断、落球することなく継続して規定回数を行うこと。
- ・1分間135回以上の速さで行うこと。
- ・玉は皿に正確に接触すること。玉が皿の縁のみに当たるような場合は正確に接触したとせず、これを2回（2皿）続けた場合は失格とする。

3 段位認定試験種目の技

① 世界一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて小皿に乗せる。次に玉を投げ上げ大皿に玉に乗せる。続いて玉を投げ上げ中皿に玉に乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・最初の皿乗せは、大皿でも小皿でもよい。すなわち、「小皿～大皿～中皿～けん」又は「大皿～小皿～中皿～けん」の順で行うこと。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から玉を引き上げるために、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

② 灯台

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

玉を持ち、けんを下につり下げて構える。玉を動かしてけんを回転させずに、鉛直上方に引き上げ、玉の上に中皿を乗せてけんを立て静止させる。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・灯台を完成させた後、審査員長の「成功」の合図（発声）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・「構え」の状態からつり下げたけんを引き上げるために、けんを上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、降ろしたけんを引き上げずにけんを持ち直すなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

③ けん先すべり

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げ、糸の出ている側の「けん先と皿胴」に玉に乗せる。この時玉の穴の縁がけん先に接触していること。このまま玉をけん先から離さずに滑らせて玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉は糸の出ている側の「けん先と皿胴」に乗せること。
- ・玉の穴の縁がけん先に接触し、且つ玉の面の一部が皿胴に接触した状態で玉を「けん先と皿胴」に乗せること。
- ・玉が「けん先と皿胴」に乗った時、及び玉の穴にけん先が入る直前まで、少なくともけんの先端側の穴の縁がけん先に接触していること。
- ・玉の穴の縁がけん先上を滑る状態で玉の穴にけん先が入ること。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。玉をけん先上で滑らせる動作を試みたが、玉が滑らなかった場合は失敗と見なす。
- ・「けん先と皿胴」に玉が正しく乗っていればここで静止する必要はないが、これを静止してから玉を滑らすことは中断とは見なさない。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

④ 地球まわし

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

「ふりけん」を完成させた後、玉を投げ上げて玉を手前に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・「構え」の状態から、玉を上下に動かす、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉の穴にけん先が入った状態から玉を投げ上げるための動作を開始した後に、一連の動作で玉の穴がけん先から抜けなかった又は再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。
- ・「ふりけん」完成までの動作及び注意事項は「ふりけん」の項目参照のこと

⑤ さか落とし

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

「灯台」を完成させた後、そのままけんを投げ上げけんを手前に1/2回転させ、けん先を玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・連続技の途中の「灯台」の完成を確認するため、必ず一度けん玉と体を静止させること。
- ・けん先が玉の穴に完全に入ること。
- ・けんを1/2回転させて「灯台～さか落とし」を行うための、膝をまげる、手を上下させる等の予備動作を開始した時点で技が開始されたと見なす。
- ・「灯台」の静止の完了した状態から次の動作に移行する間に動いたけん玉を再び静止させた場合は中断とは見なさない。ただし、故意にこれを行ったと判断されれば、修正行為と見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。
- ・「灯台」完成までの動作及び注意事項は「灯台」の項目を参照のこと。

⑥ うらふりけん

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。玉を手前に振り出し、けんを前方に動かして玉を引き、空中で玉を向こう側に1回転させ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・動作中けん又は玉の一部でも、肩幅の範囲から外に出ないこと。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・つり下げた玉を手前に振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・手で玉を持たずに構えている場合、玉を前後に振り始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉を振るなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑦ 宇宙一周

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を引き上げて「けん先と皿胴」に玉を乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。次に玉を投げ上げ小皿に乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。次に玉を投げ大皿に玉を乗せる。その後玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。続いて玉を投げ上げ中皿に玉を乗せる。最後に玉を投げ上げ玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・「けん先と皿胴」に玉を乗せる時は、玉は糸の出ている側の「けん先と皿胴」に乗せること。
- ・けん先と皿胴～けん～大皿～けん～小皿～けん～中皿～けんの順でもよい（～けん：玉の穴にけん先を入れること）。

- ・玉をけんから皿に乗せるときは、「回転」（玉を回転させて皿に乗せる）又は「抜き」（玉を回転させずに皿に乗せる）など特に制限しない。
- ・玉は確実に皿の上に乗ること。玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・つり下げた玉を「けん先と皿胴」に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・つり下げた玉を「けん先と皿胴」に乗せる動作をするために、あるいは「けん先と皿胴～けん」、「皿～けん」、「けん～皿」を行う際に、膝をまげる、手を上下させる等の玉を空中に上げるための予備動作を開始した後に、玉の穴がけん先から抜けなかったため再度やり直したなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑧ うぐいす

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を回転させずに鉛直上方に引き上げて、玉の穴を利用して玉を大皿（又は小皿）の縁に乗せ、けん先に玉を接触させた状態で静止させる。玉及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・玉を回転させてはならない。
- ・玉に乗せるのは、「大皿の縁」でも「小皿の縁」でもよい。
- ・けん先と玉の接触が見られない場合でも、玉がけん先に触れることが可能な位置関係、すなわち、演技者の正面（演技者の反対側に向いている皿側）から見たとき、けん先と玉が重なる位置関係にあること。
- ・うぐいすを完成した後、審査員長の「成功」の合図（発声）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・つり下げた玉を大皿の縁に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉を引き上げるなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑨ つるしとめけん

【持ち方】 つるし技の持ち方

二本の指で糸の中程を持ち、けん玉をつるす（右利きの場合：左に玉、右にけん）。

持ち替え後の持ち方 とめけんの持ち方に準じる持ち方

【技の動作】

二本の指で糸の中程を持ち、けん玉を下につり下げてかまえる。糸を引き、けん玉を鉛直上方に引き上げて糸を離してけんをつかみ、玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・けん玉をつるした時、糸を指に掛けてはならない。また、糸を余らせてつまんではならない。
- ・けんをつかんだ時、皿胴をつかんではならない。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・玉を回転させてはならない。
- ・技は片手で行うこと（つるした手でけんをつかむこと）。
- ・つるしたけん玉をまっすぐ引き上げるために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けん玉を引き上げるなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑩ はねけん

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

「飛行機」を完成させた後、けんを投げ上げけんを手前に1回転させ、けん先を玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・けんを投げ上げるための、膝をまげる、手を上下させる等の予備動作を開始した時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、投げ上げようとしたけんが玉の穴から抜けなかったため、再び投げ上げるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。
- ・「飛行機」完成までの動作及び注意事項は「飛行機」の項目を参照のこと。

⑪ 一回転飛行機

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って手前に引き寄せ構える。けんを放してけんを前に振り出し、玉を手前に動かしてけんを引き空中でけんを手前に1.5回転させ、けん先を玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・けん先が玉の穴に完全に入ること。
- ・けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けんを手で持たないで構えている場合、けんを前後に振り始めた時点で、技が開始されたと見なす。
- ・けんを前に振り出すなど技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑫ 一回転灯台

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って手前に引き寄せ構える。けんを放してけんを前に振り出し、玉を手前に動かしてけんを引き空中でけんを手前に1回転させ、玉の上に中皿を乗せてけんを立て静止させる。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・一回転灯台を完成させた後、審査員長の「成功」の合図（発声）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けんを手で持たないで構えている場合、けんを前後にふり始めた時点で、技が開始されたと見なす。
- ・けんを前に振り出すなど技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑬ すべり止め極意

【持ち方】 極意技の持ち方

けん先を手のひら側にし、糸の出ている側の皿胴を下にして片手でけんの小皿と大皿を挟む様に持つ。皿胴より中皿側のけんに触れてはならない。

【技の動作】

片手でけんの小皿と大皿を持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を回転させずに鉛直上方に引き上げて、玉の穴を利用して玉をすべり止めに乗せて静止させる。

玉及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・皿胴より中皿側のけんを持ってはならない。けんを持つ手はけん先に触れても良い。
- ・玉を回転させてはならない。
- ・審査員長の「成功」の合図（発声）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・つり下げた玉をまっすぐ引き上げる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムを

とるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。

- ・玉を引き上げるなど技を開始した後に、再び手で玉を押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑭ うぐいすの谷渡り

【持ち方】 とめけんの持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。けんを動かして玉を回転させずに鉛直上方に引き上げて、玉の穴を利用して玉を大皿（又は小皿）の縁に乗せ、けん先に玉を接触させた状態で静止させる。次いで、玉を投げ上げそのまま回転させることなくけん先を越えて玉の穴を利用して玉を小皿（又は大皿）の縁に乗せ、けん先に玉を接触させた状態で静止させる。最後に、玉を投げ上げそのまま玉を回転させずに玉の穴にけん先を入れる。

【注意事項】

- ・玉を回転させてはならない。
- ・玉を皿の縁に乗せる順番は、「大皿の縁～小皿の縁」でも「小皿の縁～大皿の縁」でもよい。
- ・けん先と玉の接触が見られない場合でも、玉がけん先に触れることが可能な位置関係、すなわち、演技者の正面（演技者の反対側に向いている皿側）から見たとき、けん先と玉が重なる位置関係にあること。
- ・連続技の途中の「うぐいす」の完成を確認するため、必ず一度けん玉と体を静止させること。
- ・つり下げた玉を大皿の縁に乗せる動作をするために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・玉を引き上げるなど技を開始した後に、玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・「うぐいす」の静止の完了した状態から次の動作に移行する間に動いたけん玉を再び静止させた場合は中断してやり直しとは見なさない。ただし、故意にこれを行ったと判断されれば、修正行為と見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。

⑮ 灯台とんぼ返り

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

「灯台」を完成させた後、けんを投げ上げ、けんを手前に1回転させ、玉の上に中皿を乗せてけんを立て静止させる。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・連続技の途中の「灯台」の完成を確認するため、必ず一度けん玉と体を静止させること。
- ・灯台とんぼ返り完成後、審査員長の「成功」の合図(発声)があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・「灯台」の静止の完了した状態から次の動作に移行する間に動いたけん玉を再び静止させた場合は中断とは見なさない。ただし、故意にこれを行ったと判断されれば、修正行為と見なす。
- ・連続技における修正行為の禁止事項を守ること。
- ・「灯台」完成までの動作及び注意事項は「灯台」の項目を参照のこと。

⑯ つるし一回転飛行機

【持ち方】 つるし技の持ち方

二本の指で糸の中程を持ち、けん玉をつるす（右利きの場合：左にけん、右に玉）。

持ち替え後の持ち方 玉の持ち方

【技の動作】

糸の中程を持ち、けん玉を下につり下げて構える。つり下げたけん玉を糸を使って前方に振り出し、糸を引いてけんを手前に1.5回転させ、糸を離して玉をつかみ空中で手前に1.5回転してきたけん先を玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・けん玉をつるした時、糸を指に掛けてはならない。また、糸を余らせてつまんではならない。

- ・ 技は片手で行うこと（つるした手で玉をつかむこと）。
- ・ けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・ つるしたけん玉を前方に振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとる、けん玉を前後に振り始めるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・ けん玉を前に振り出すなど技を開始した後に、けん玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑰ 二回転灯台

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って手前に引き寄せ構える。けんを放してけんを前に振り出し、玉を手前に動かしてけんを引き空中でけんを手前に2回転させ、玉の上に中皿を乗せてけんを立て静止させる。けん及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・ 二回転灯台を完成させた後、審査員長の「成功」の合図（発声）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・ けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・ けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・ けんを手で持たないで構えている場合、けんを前後に振り始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・ けんを前に振り出すなど技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

⑱ 自由種目

技の内容

高度な技術を示す技やオリジナルな技。
演技の内容が六段に値するかが問われる。

⑲ タイム競技B

下記の技を順序通り正しく行い、全種目終了までの速さを競うものである。失敗したら何度でも成功するまでやり直して進めること。

（注）技については、本規程の「1級位認定試験種目の技」、「2準初段位認定試験種目の技」及び「3段位認定試験種目の技」を参照のこと。

- ・ 試技は、審査員長の『構え、始め』の発声・動作で開始する。
- ・ 試技は、審査員長の『それまで』の発声・動作で終了する。
- ・ 審査員長は、試技状況を判断して、試技途中であっても「試技中止」を指示することができる。

- 1) 前ふりろうそく
- 2) 県一周
- 3) 日本一周2回連続
- 4) 世界一周2回連続
- 5) ヨーロッパ一周
- 6) 地球まわし
- 7) うぐいす～けん
- 8) はねけん
- 9) 一回転飛行機
- 10) さか落とし

<試技における注意事項>

- 1) 前ふりろうそく：玉を前にふって、「ろうそく」を完成させる。
中皿の面の外周が全て玉に接触すること。
- 3) 日本一周2回連続：玉の穴にけん先が入ったら、玉をおろさずに連続して技を行うこと。一周技の玉の皿乗せは、皿の面の外周が全て玉に接触すること。
- 4) 世界一周2回連続： 同 上
- 5) ヨーロッパ一周：「小皿～けん～大皿～けん～中皿～けん」又は「大皿～けん～小皿～けん～中皿～けん」の順に玉を乗せていく技。（～けん：玉の穴にけん先を入れること）。玉の皿乗せは、皿の面の外周が全て玉に接触すること。
- 7) うぐいす～けん：「うぐいす」は静止の必要はないが、玉の穴の縁が正しく大皿の縁（又は小皿の縁）に接したあとで、玉の穴にけん先を入れること。
- 10) さか落とし：「灯台」を行った時、中皿の面の外周が全て玉に接していれば、静止する必要はない。

⑳ もしかめ

【持ち方】 大皿の持ち方

【技の動作】

けんを持ち、玉を大皿に乗せて構える。けんを動かして玉を投げ上げ中皿に玉を乗せる。続いて玉を投げ上げ大皿に玉を乗せる。この玉を大皿から中皿へ、中皿から大皿へと一連の動作を継続して繰り返す。

【注意事項】

- ・もしかめ回数の数え方は、最初に玉を大皿に乗せて（手で乗せてもよい）から、中皿に移動して1回、大皿にもどして2回、中皿に移動して3回・・・と数える。
- ・「もしかめ」は、1回の試技にて中断、落球することなく継続して規定回数を行うこと。
- ・1分間135回以上の速さで行うこと。
- ・玉は皿に正確に接触すること。玉が皿の縁のみに当たるような場合は正確に接触したとせず、これを2回（2皿）続けた場合は失格とする。

(附則)

1. 平成12年10月29日 制定（従来慣行で実施していたものを当期日付けで成文化）
2. 平成16年1月1日 改正
3. 平成17年10月1日 改正
4. 平成19年1月21日 改正
5. 平成19年5月13日 改正
6. 平成24年5月5日 改正
7. 令和元年5月10日 改正